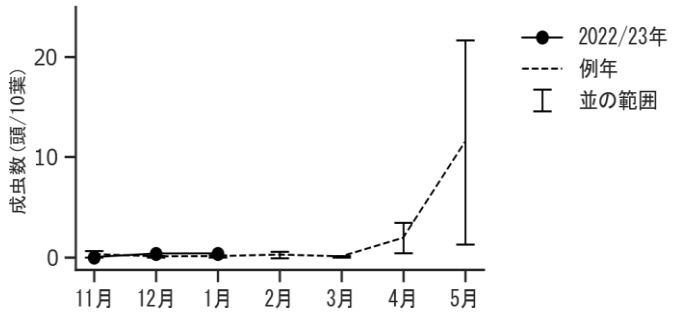
令和　4 年度　　2 月予報

作物	とうがん(施設・立体栽培)		地域	宮古群島
病害虫名	① ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		例年の発生量の推移（→）		

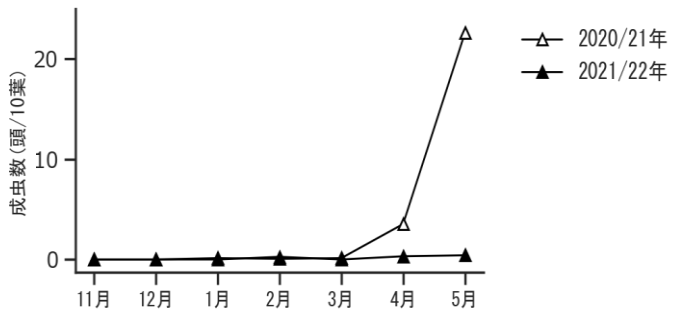
調査結果

成虫数の推移

＜今期と平年＞



＜過去２年＞



・発生施設率37.5%（例年：20.0%）

防除のポイント

・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。

・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。

・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。

・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

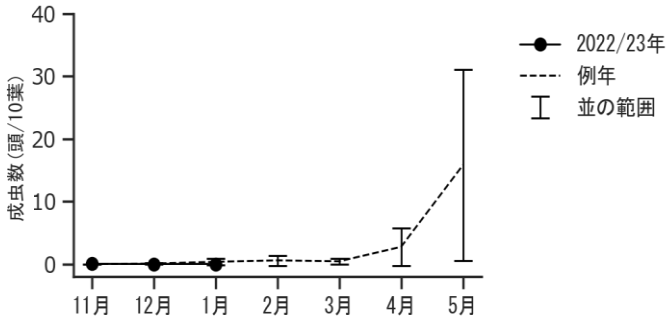
令和　4 年度　　2 月予報

作物	とうがん(施設・立体栽培)		地域	宮古群島
病害虫名	② タバココナジラミ		成虫	
調査結果	1 月の発生量（平年比）	並		
予報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

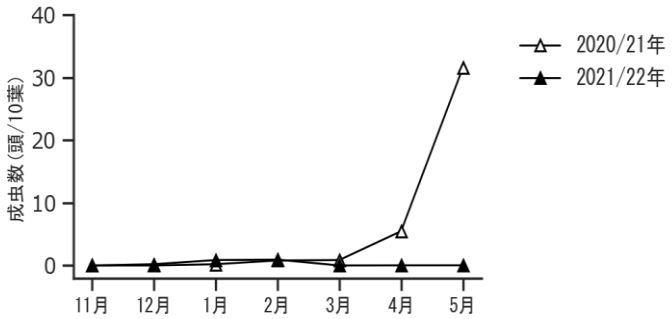
調査結果

成虫数の推移

＜今期と平年＞



＜過去２年＞



・発生施設率12.5%（例年：20.0%）

防除のポイント

・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
・施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、
　気門封鎖系等の薬剤も利用する。

幼虫